
目次

年頭所感

- 【01】事業報告
 - 教育機関留学生担当者防災ワークショップ
 - とんだばやしコミュニティ通訳ボランティア研修
- 【02】特集 外国人児童・生徒の就学
 - 日本語指導が必要な児童生徒への配慮について
 - 平成26年度 大阪府公立高等学校入学者選抜について
- 【04】大阪府外国人情報コーナー
 - 大阪府内の高校奨学金制度
- 【03】OFIX国際交流員レポート
 - フィリピンの食文化

年頭所感

(公財)大阪府国際交流財団 理事長 芝池 幸夫

あけましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、大阪府の国際化戦略の推進及び当財団事業にご指導、ご協力いただきありがとうございました。

平成26年度は、大阪府国際化戦略アクションプログラム3か年の最終年度にあたり、財団としても具体的なアウトプットを出していきたいと考えております。

これまで、国際交流事業はともすればリアルタイムのアウトプットが問われない長い微睡(まどろみ)のなかにあったように思います。昨年ブエノスアイレスでオリンピックの東京招致が決定し、大成功のプレゼンテーションによって、これからのわが国の国際交流の流れが急速に進んでいくように思います。

こうした動向をふまえ、財団としても、まず4月からは、ホームページを全面的にリニューアルいたしますとともに、外国人相談員を2人体制といたしまして、市町村の外国人相談窓口の拡充をお願いしてまいりたいと考えております。

平成26年度内にコミュニティ通訳のレベルチェックを英語をはじめ多言語についても実施したいと考えております。さらに、平成24年度から進めているオリオン寮の大規模改修についても、平成26年度で完了し、オリオン寮の全室のエアコン、冷蔵庫を新しく入れ替え、留学生の住環境整備に努めてまいります。

また、次期アクションプログラムの策定にむけて、ベトナム、インドネシアに次ぐ新たな留学生開拓について、大阪府国際化戦略実行委員会として、必要な調査を進めてまいります。

グローバル化の波は、年々高くなってきておりますが、今後とも着実な歩みを進めてまいりたいと思います。

さらに、今年からOFIXニュースは、月初めの隔月刊として内容の充実に努めてまいります。

なお、賛助会員をはじめ関係方面への年賀状は、今年から、この年頭所感に替えさせていただきます

【01】事業報告

■ 教育機関留学生担当者防災ワークショップ

災害時の留学生支援体制を考えるためのワークショップを11月27日(水)マイドームおおさかにて、大学や専門学校の留学生担当者をはじめ行政や国際交流協会等幅広い分野の方々、33名の参加を得て開催しました。

東日本大震災時に留学生支援に奔走された、東北大学国際交流センター教授 末松 和子 氏を講師にお招きし、『東日本大震災から学ぶ留学生支援-危機管理と支援の充実化に向けて-』という演題で体験をふまえた講演いただき、その後、府内の留学生支援の現状や課題について意見交換を行いました。

講師からは震災当時の様子や被災留学生の意識や行動パターンなどの実態調査結果の分析、さらには、現在他大学とも連携して検討を進められる「災害時の国際交流危機管理ハンドブック」について具体的にお話いただきました。

母国がチャーター便を出すとの嘘のチェーンメールで新潟空港に大集合した

留学生の帰国支援に苦労したお話しや、また、東北大学の多数の留学生が地域の避難所を突然訪れ軋轢が生じ、日頃からの地域との交流の大切さを痛感したというお話しには、参加者から「臨場感あふれる実体験に基づく貴重な話が聞けて良かった」という趣旨の感想が多く寄せられています。意見交換会では、安否確認や防災研修の現状と課題、解決策について活発な意見交換をしていただきました。参加者からは「様々な話が聞けて有意義でした」という意見をいただきました。OFIXでは、今後とも関係機関との連携を図り、留学生をはじめとする外国人の活動環境整備に努めてまいりたいと考えています。

■ とんだばやしコミュニティ通訳ボランティア研修

富田林市をはじめ南河内地域に住んでいる外国人の方々が安心して地域で暮らしていける環境づくりの一環として、コミュニケーションの橋渡し役を担うコミュニティ通訳ボランティアの養成研修をとんだばやし国際交流協会との共催で10月12日（土）、11月9日（土）に実施いたしました。研修では5言語、約20名のボランティアが参加され、コミュニティ通訳者としての心構えや通訳スキルのトレーニング方法に関する講義の他、母子保健分野や学校などの教育分野での通訳を想定したロールプレイを、各言語のネイティブ講師をお招きして行いました。参加者からは「今後の活動の励みになった」「とても貴重な経験ができた」「多くの新しい事が学べた」との声があがりました

【02】特集 外国人児童・生徒の就学

■ 日本語指導が必要な児童生徒への配慮について

大阪府教育委員会事務局 市町村教育室 小中学校課

1 はじめに

平成25年5月1日現在、政令市を含む大阪府内の小・中学校には、日本語指導が必要な子どもたちが1869人おり、年々増える傾向にあります。また、これらの子どもたちが母語としている言語は36言語にのぼり多言語化が進んでいます。

近年、これまで日本語指導の必要な子どもを受入れたことのない小・中学校に編入するケースや、日本の中学校を経ずに直接高等学校を受験するケースも増えています。

2 小・中学校における日本語指導への支援について

受入れにあたっては、まず、日本語指導が必要な子どもたちが一日も早く学校生活になじむよう支援していくことが大切です。大阪府教育委員会では、下の2つのマニュアルを作成・配付しました。府内の小・中学校では、これらの冊子を活用して日本語指導が必要な子どもたちの受入れ体制の充実や日本語初期指導を行っています。これらの冊子は、大阪府教育委員会WEBページからもダウンロードすることができます。

- 「ようこそOSAKAへー帰国・渡日児童生徒の受入マニュアルー」
- 「ようこそOSAKAへパート2ー日本語支援アイデア集ー」

3 府内小・中学生及び保護者への支援について

○ 多言語進路ガイダンスの実施

日本語指導が必要な子どもたちやその保護者を対象に、高校等の進学についての進路ガイダンスを毎年、小・中・高等学校の先生方や市町村教育委員会、国際交流協会などの関係団体の方々のお力をお借りし、府内7か所で開催しています。高校入試制度の説明や高校の先生による学校紹介、先輩の体験談や個別相談などを、通訳の方の力をお借りして多言語で行っています。参加者からは「役に立つことを知られて良かった」「たくさんの方の話を聞いて安心できた。がんばります」等の感想が寄せられています。

○ 帰国・渡日児童生徒学校生活サポート情報

高校への進路情報を含め、日本の教育制度や学校生活についての情報を大阪府教育委員会WEBページ「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート情報」において、日本語を含む8言語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語）で提供しています。

<http://www.pref.osaka.jp/jidoseitoshien/toniti/index.html>

○ 高校生活オリエンテーションの実施

毎年3月、府立高校に入学予定の帰国・渡日生徒とその保護者を対象に、高校生活に必要な情報を提供するためのオリエンテーションを行っています。

4 府内公立高校生及び保護者への支援について

○ 教育サポーターの派遣

日本語指導が必要な生徒が、安心して有意義な学校生活を送り、希望する進路が実現できるよう、授業及び懇談会時に必要な通訳者（教育サポーター）を府立高校に派遣しています。府教育委員会「教育サポーターバンク」には、現在約400人の方に登録いただいています。また、教育サポーター育成研修を実施し、教育サポーターの方のスキルアップや交流等を図っています。

5 おわりに

今後も日本語指導が必要な子どもたちの学校生活における支援の充実を図るとともに、すべての子どもたちが広い視野をもって異文化を理解し、違いを豊かさに、互いに認め合い、共に生きていこうとする気持ちを育てていくよう、取り組んでまいります。

■ 平成26年度 大阪府公立高等学校入学者選抜について

大阪府教育委員会事務局 教育振興室 高等学校

課

◎ 応募資格審査

「外国において中学校に相当する学校の卒業生（卒業見込みの者を含む。以下同じ。）のうち、本人及び保護者の住所が入学日までに府内になることが確実な方」は、出願に先立って応募資格審査を受けていただくことになります。応募資格審査の詳細については、大阪府教育委員会のウェブページに掲載しています。

http://www.pref.osaka.jp/kotogakko/gakuji-g3/h26_ohbo.html

◎ 入学志願書

「大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項」（以下「実施要項」という。）に様式を載せています。実施要項は応募資格審査の際にお渡ししますが、大阪府教育委員会のウェブページにも掲載しています。

http://www.pref.osaka.jp/kotogakko/gakuji-g3/h26_yoko.html

◎ 通学区域

平成26年度から、通学区域は大阪府全域になります。

○ 前期入学者選抜（学力検査は、国語、数学及び英語の3教科）

以外の検査等	学 科 等	学力検査
	普通科（全日制・普通科単独校及び専門学科を併置している高校のうち府立夕陽丘高校と府立東住吉高校）	小論文
	普通科総合選択制（全日制・府立の高校）	小論文
	普通科総合選択制（全日制・東大阪市立日新高校）	面接
	普通科単位制（全日制）	小論文
	大阪府教育センター附属高校	情報活用能力検査
検査	専門学科（全日制）	小論文又は実技
	総合学科（全日制・デュアル総合学科を含み、クリエイティブスクールを除く。）	小論文
	総合学科（全日制・クリエイティブスクール） 多部制単位制1・2部（クリエイティブスクール）	面接

【日 程】

出願期間 2月14日（金）、17日（月）

学力検査等 2月20日(木)
※一部の学科は、2月16日(日)、21日(金)に
実技検査を実施

合格者発表 2月27日(木)

○海外から帰国した生徒の入学者選抜(前期入学者選抜と同日程で実施)

- ◆英語科、国際教養科、国際文化科、グローバル科及び総合科学科において実施
- ◆原則として、外国において継続して2年以上在留し、帰国後2年以内の方が対象
- ◆学力検査(数学及び英語)と作文(グローバル科においては英語による記述も可とし、その他の学科については外国語による記述も可)

○中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜
(前期入学者選抜と同日程で実施)

- ◆実施校及び実施学科
府立門真なみはや高校(普通科総合選択制)、府立布施北高校(普通科及びデュアル総合学科)、府立成美高校(普通科総合選択制)、府立長吉高校(普通科単位制高等学校)、府立八尾北高校(総合学科)
- ◆原則として、中国等から帰国した者又は外国籍を有する者で小学校第4学年以上の学年に編入学した方が対象
- ◆学力検査(数学及び英語)と作文(外国語による記述も可)

○後期入学者選抜

学 科 等	学力検査等
普通科(全日制) の5教科	国、社、数、理、英
普通科総合選択制(全日制)	国、社、数、理、英の5教科
総合学科(全日制・クリエイティブスクール) 多部制単位制1・2部(クリエイティブスクール)	国、社、数、理、英の5教科
定時制の課程(クリエイティブスクールを含む。) 多部制単位制3部(クリエイティブスクール)	国、数、英の3教科
通信制の課程	面接

【日 程】

《通信制以外》

出願期間 3月5日(水)、6日(木)

学力検査等 3月12日(水)

合格者発表 3月19日(水)

《通信制》

出願期間 3月2日(日)、5日(水)、6日(木)

面接 3月9日(日)、10日(月)、11日(火)のうち1日

合格者発表 3月19日(水)

○中国帰国生徒等に対する受検上の配慮について

学力検査時間の延長、辞書持込、学力検査問題へのルビ打ち、キーワードの外国語併記などの配慮を受けることができます場合があります。詳しくは下記までお問い合わせください。

※お問い合わせ 教育振興室高等学校課学事グループ
電話 06-6944-6887(直通)

【03】大阪府外国人情報コーナー

■ 大阪府内の高校奨学金制度

大阪府外国人情報コーナーでは、外国人の保護者から子どもの進路・進学についての相談をよく受けます。そのなかには、義務教育以降にかかる費用に関する質問もあります。

平成22年度からいわゆる「高校無償化法」で全国の公立高校授業料が無償となりました。また、同年度に大阪府では私立高校も一定所得以下の世帯を対象に授業料が無償化されました。ただし公立、私立高校とも入学金や制服代等は従来通り納付する必要があります。経済的理由により修学が困難な生徒のため、大阪府内にはさまざまな奨学金制度があります。代表的なものは、大阪府育英会奨学金です。また市町村ごとにも奨学金や教育支援資金貸付制度があります。外国人の方も利用できますが、在留資格・居住地・世帯所得・申請時期など、条件が各奨学金によって異なります。在学の学校、各機関や市町村にお問い合わせください。

【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間：9時から17時30分（月曜から金曜）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、
スペイン語、タイ語、フィリピン語、
ベトナム語、日本語

【04】OFIX国際交流員レポート

■ フィリピンの食文化

こんにちは。OFIX国際交流員のアルビンです。もう冬らしい気候になりましたが、皆さんは大丈夫でしょうか。私は寒いのは苦手です。やっぱり南国の人間ですから。さて、今月はフィリピンの食文化についてお話しします。

フィリピン料理と言ったら、何が思い浮かぶでしょうか。フィリピン料理はあまり有名ではないので、日本人にはあまり知られていません。代表的なものは「アドボ」で、チキン・豚肉の煮込み料理です。もう一つ代表的な料理は「シニガング」というスープで、辛さのないトムヤンクンのような味です。これらの料理はどの家庭でも作っているし、よく食べられています。

フィリピンの食文化と言ったら、他の国の食文化と違って、さまざまな食文化が混ざっています。というのは、まず、フィリピンは島国でスペイン人が来る前には島々が一つの国に統一されていませんでした。それで、地域によって食文化が違います。

たとえば、ある地域は唐辛子をよく使って、多くの料理は辛いです。他の地域は海に近いので海のものが多いです。1565年から333年間もスペインの植民地になり、スペインの食文化も吸収しました。その結果、「メチャード」や「メヌド」などのスペイン料理もフィリピンの食文化になっています。

中国からも多くの人々が来て、中華料理もフィリピンの食文化に入りました。麺類の料理もたくさんあり、焼きビーフン、焼きそば、そして、ラーメンなどがあります。ちなみにフィリピンのラーメンは「マーミ」と呼ばれています。肉まんもありますが、日本の肉まんとは違うところは中身です。鶏肉や塩卵（塩水で茹でた卵）が入った肉まんもあります。フィリピンの食文化はさまざまで、どれもおいしいです。しかし、どの食文化の中でも、珍味といわれるものがあります。最後にそれを紹介したいと思います。

まずは、私の好物の「ディヌグアン」という料理です。これは豚の血でできたシチューのようなものです。次は屋台で売っているものですが、鶏の足と頭です。鶏の足は中国でも他のアジアの国でも食べられています。鶏の足は「アディダス」、頭は「ヘルメット」と呼ばれています。フィリピンの珍味の中で一番有名なのは「パロット」というものです。日本のテレビでも放送されたそうです。「パロット」は孵化直前のアヒルの卵を加熱したゆで卵です。おいしいですが、見た目がグロテスクなため暗い所で食べた方がいいです。

大阪にもフィリピン料理の店はいくつかあります。一度行ってみてはいかがでしょうか。

